

地域包括ケア病棟 としてできること

社会医療法人 高橋病院
医療福祉相談・地域連携室
医療ソーシャルワーカー
石井 義人

社会医療法人 高橋病院

令和3年に創立129年目を迎えます。当院は
《地域住民に愛される信頼される病院》を理念としています。



地域包括ケア病棟について

医療と介護の連携を支援する

はこだて療養支援のしおり



令和2年12月

函館市医療・介護連携推進協議会
連携ルール作業部会 退院支援分科会

10ページ



病床の仕組みを知りたい

●「病床」と「病棟」について

「病床」は患者を入院させることができる施設・設備をいいます。医療法により「病床」は結核病床、精神病床、感染症病床、一般病床、療養病床の5つに区分されます。病床を診療ごと、あるいは種類ごとに分けたそれぞれの固まりのことを「病棟」と呼びます。

一般病棟（病床）

地域包括ケア病棟（病床）

急性期治療後に病状が安定した患者に対して、在宅や介護施設への復帰支援に向けた医療や支援を行う病棟です。この病棟では、医療やリハビリを受けることができる日数は決まっており、最長でも60日が原則とされています。

脳血管疾患または大腿骨頸部骨折などの病気で急性期を脱しても、また医学的・社会的・心理的なサポートが必要な患者に対して、多くの専門職種がチームを組んで集中的なリハビリテーションを実施し、心身ともに回復した状態で自宅や社会へ戻っていただくことを目的とした病棟です。この病棟では、疾患別入院できる期間が決められています。

地域包括ケア病棟について

医療と介護の連携を支援する

はこだて療養支援のしおり



令和2年12月

函館市医療・介護連携推進協議会
連携ルール作業部会 退院支援分科会

11ページ

(令和2年 10月現在)

	一般	地域包括ケア	回復期	障がい	ホスピス	精神	療養（医療）	感染症	結核
亀田病院	●	●	●	●					
亀田北病院						●			
亀田花園病院	●						●		
共愛会病院	●	●		●			●		
国立病院機構函館病院	●	●							
市立函館恵山病院									
市立函館南茅部病院	●								
市立函館病院	●								
高橋病院	●	●	●						
富田病院	●								
西堀病院	●	●	●	●					
函館おおむら整形外科病院	●	●							
函館おしま病院					●				
函館記念病院	●					●	●		
函館協会病院	●	●	●	●			●		
函館五稜郭病院	●								
函館市医師会病院	●	●		●					
函館新都市病院	●		●						
函館赤十字病院	●	●							
函館中央病院	●								
函館脳神経外科病院	●	●							
函館稜北病院	●	●	●						
函館渡辺病院	●					●			
森病院					●		●		

函館市内の
11医療機関
が届出して
います

(五十音順)

地域包括ケア病棟を有する病院の 3つの病院機能について

■ 急性期ケアミックス型

急性期病院に設置されており、
自院の急性期治療後の患者
受け入れが中心。

■ 地域密着型

日常生活圏の在宅・介護
施設等からの緊急時の受
け入れ（サブアキュート）
が中心。

■ ポストアキュート連携型

入院全体の概ね半分以上が、
急性期病院等からの転院患者。

病院機能や地域の
ニーズに応じて、
柔軟に対応できる
病棟

地域包括ケア病棟の役割

①急性期治療を経過した
患者の受け入れ



地域包括ケア病棟



②在宅で療養を行っている
患者等の受け入れ



③在宅復帰支援



②日中の在宅での病状悪化への対応
③在宅復帰支援について

【施設基準等】

- 在宅復帰率70%以上
- リハビリテーションを提供する患者について、1日平均2単位以上提供していること
- 「適切な意思決定支援に関する指針」を定めていること
- 入院期間 60日以内を原則とする

・「適切な意思決定支援に関する指針」を定めていること



もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて、前もって考え、繰り返し話し合い共有する取組を「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」と呼びます。あなたの心身の状態に応じて、かかりつけ医等からあなたや家族等へ適切な情報の提供と説明がなされることが重要です。

人生の終わりまで、あなたは、どのように、過ごしたいですか？

もしものときのために

～自らが望む、人生の最終段階の医療・ケアについて話し合ってみませんか～

誰でも、いつでも、命に関わる大きな病気やケガをする可能性があります。

命の危険が迫った状態になると、約70%の方が、医療やケアなどを自分で決めたり望みを人に伝えたりすることが、できなくなると言われています。

自らが希望する医療やケアを受けるために大切にしていることや望んでいること、どこでどのような医療やケアを望むかを自分自身で前もって考え、周囲の信頼する人たちと話し合い、共有することが重要です。



話し合いの進めかた（例）

あなたが大切にしていることは何ですか？

あなたが信頼できる人は誰ですか？

信頼できる人や医療・ケアチームと話し合いましたか？

話し合いの結果を大切な人たちに伝えて共有しましたか？

心身の状態に応じて意思は変化することがあるため、何度でも繰り返し考え、話し合います。

もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて、前もって考え、繰り返し話し合い共有する取組を「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」と呼びます。あなたの心身の状態に応じて、かかりつけ医等からあなたや家族等へ適切な情報の提供と説明がなされることが重要です。

このような取組は、個人の主体的な行いによって考え、進めるものです。知りたくない、考えたくない方への十分な配慮が必要です。



詳しくは、厚生労働省のホームページをご覧ください。

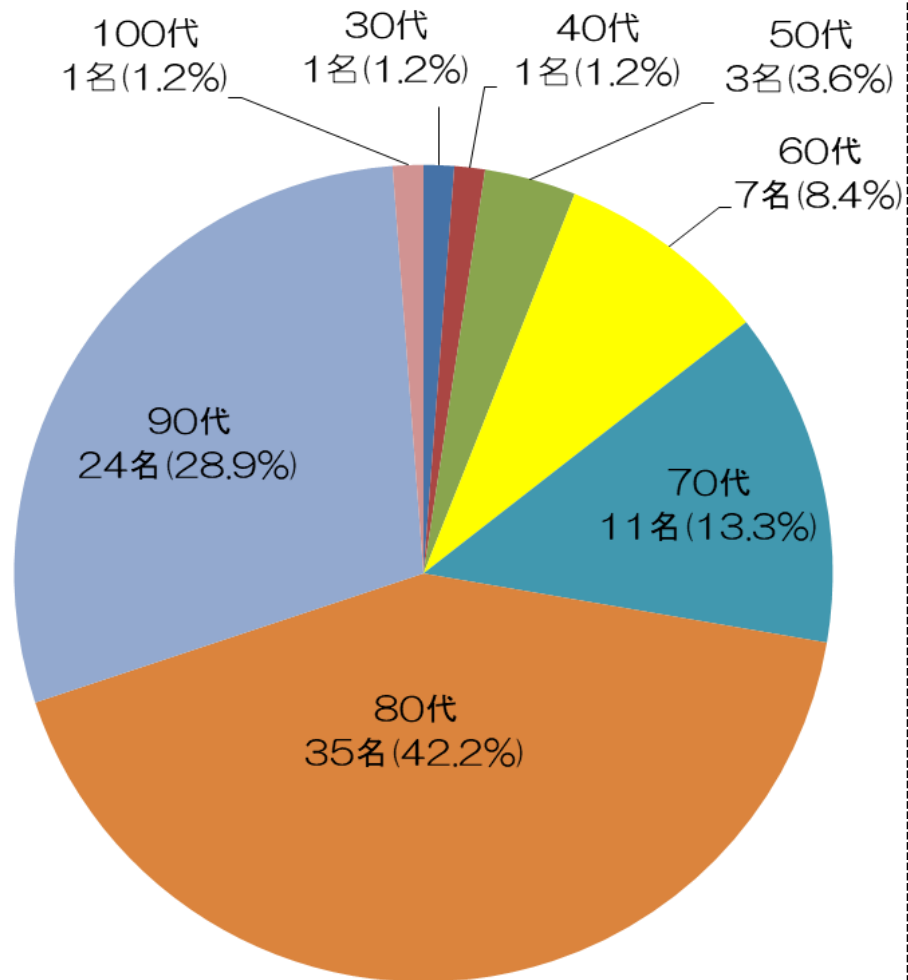
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryou/saisyu_iryou/index.html



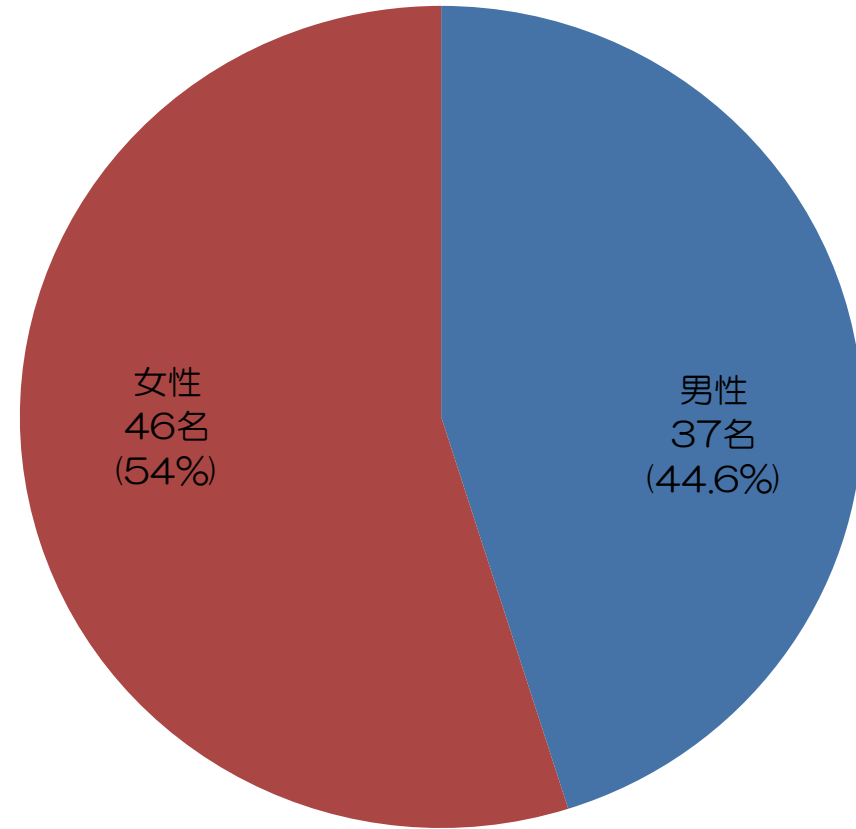
地域包括ケア病床 患者動態

- 病床数 44床
- 対象期間 2021年2月～4月(3ヶ月)
- 入院患者数 83名 (月平均 27.7名)
- 退院患者数 91名 (月平均 30.3名)

【年齢】

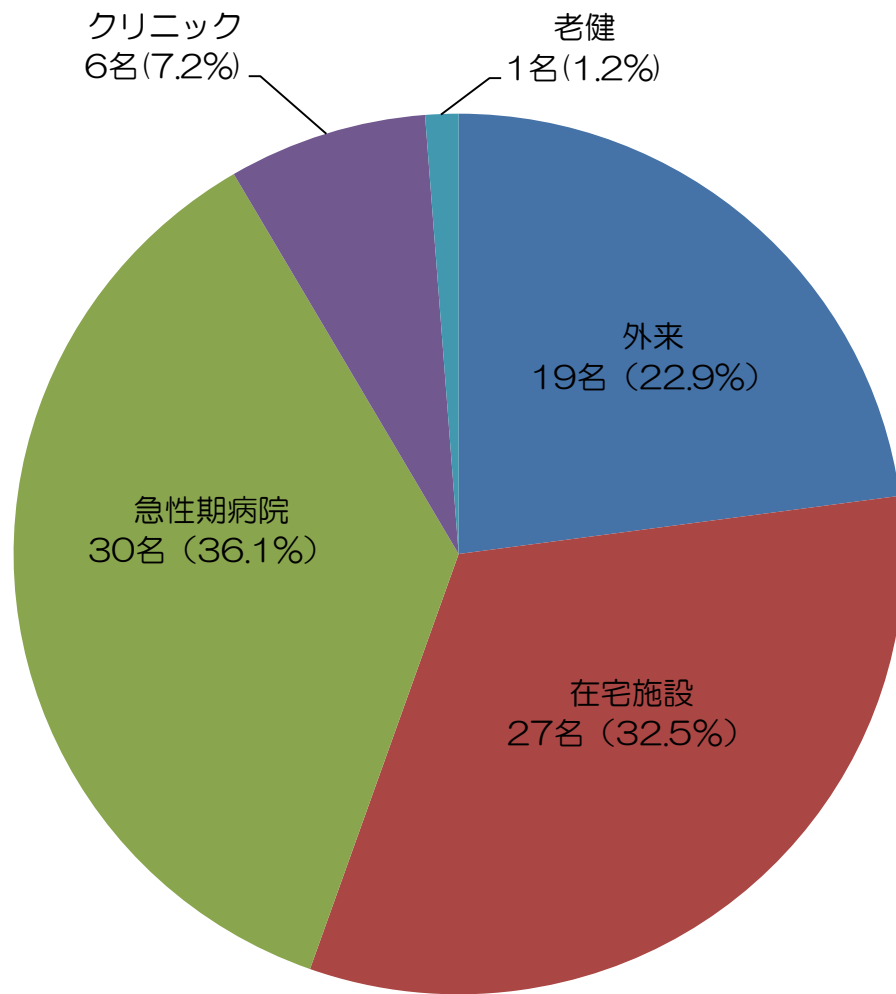


【性別】

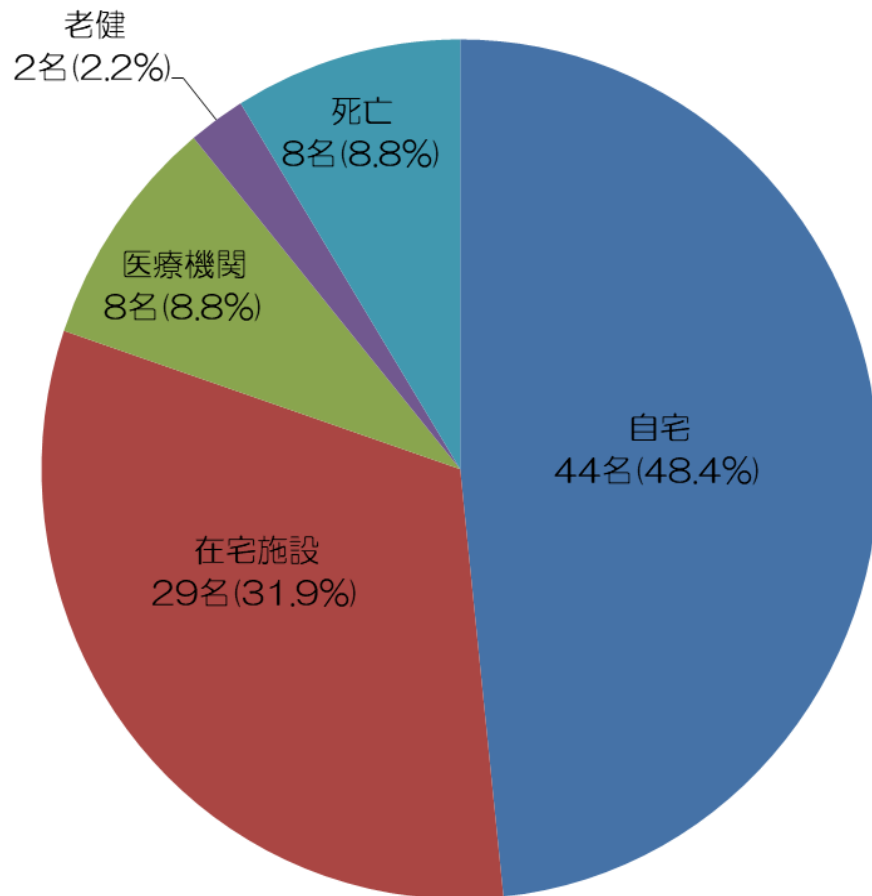


平均年齢82.6歳（37歳～100歳）

【入院元 83名】

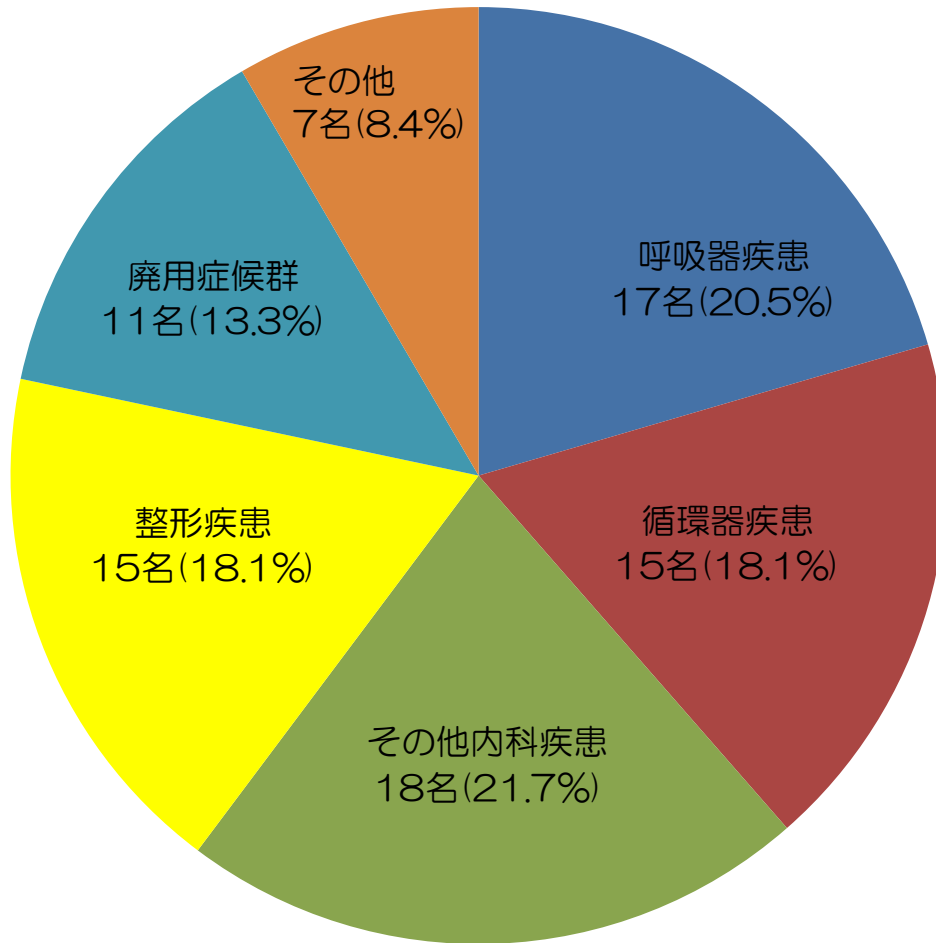


【退院先 91名】



在宅からの入院、在宅復帰支援が増えています

【病名など】



様々な疾患や病状の方が入院しています

○呼吸器疾患

肺炎、気管支炎、喘息、慢性閉塞性肺疾患など

○循環器疾患

心不全、心房細動、不整脈など

○その他内科的疾患

発熱、食欲不振、脱水症、貧血、糖尿病増悪、尿路感染症など

○整形疾患

大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症、上腕骨折、肋骨骨折など

○廃用症候群

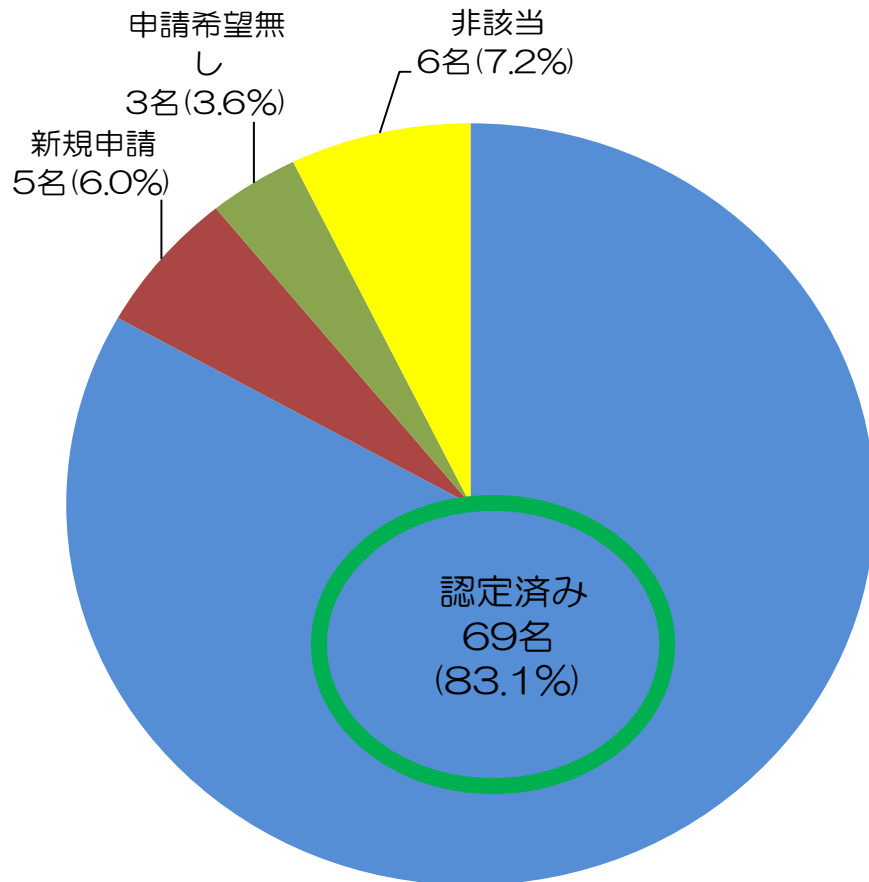
手術後、脳梗塞後、低体温症後、褥瘡、老衰など

○その他

検査、胃瘻チューブ交換など

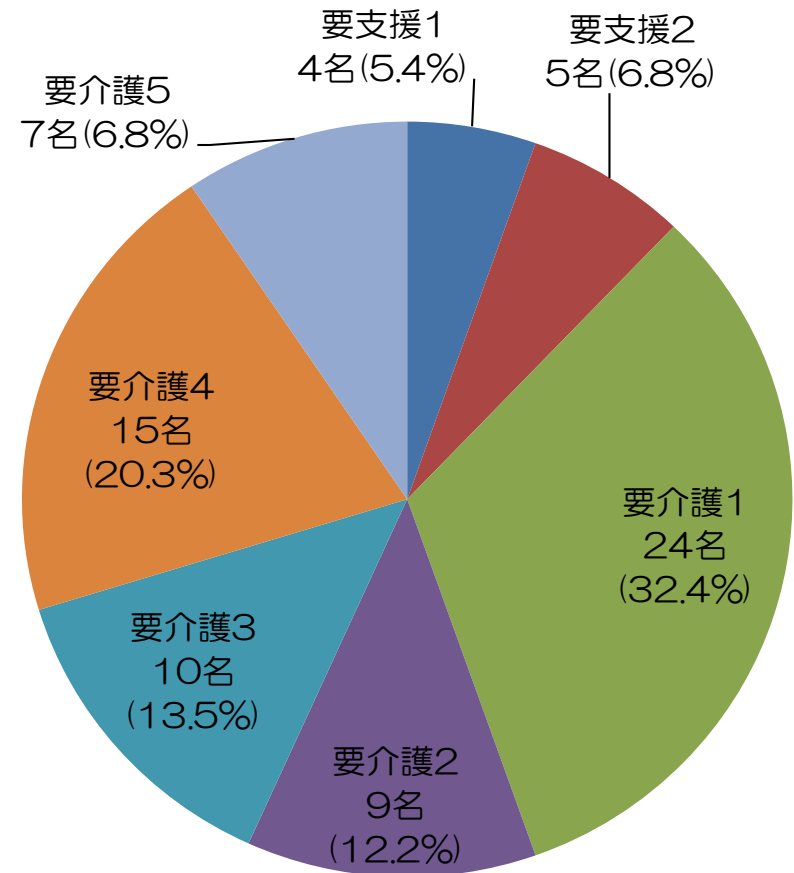
【介護保険の利用状況】

(対象 83名)



【介護度】

(認定済み、新規申請 74名)



ケアマネジャー、在宅事業所等との連携、情報共有が必須

入院相談のながれ

○かかりつけ医からの入院相談

○ケアマネジャー、在宅支援者からの入院相談

⇒当院では、医療ソーシャルワーカーが相談受付し、
入院調整部門が医師へ相談、入院調整を行っています。

- 在宅からは、即日入院で対応しているケースが多いです。
- 病状や緊急性によっては、急性期病院への受診や入院をお勧めすることがあります。

入院から退院までの取り組み

○情報収集、共有

患者さん、ご家族と面談。入院前の生活状況や今後の希望を確認。
ケアマネジャーや在宅支援者からの情報提供。

○リハビリテーション

実施ケースは、1日当たり平均2.6単位を提供。

○病状説明、カンファレンス

患者さん、ご家族、医師、看護師、リハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカー等が参加。ケアマネジャーや在宅支援者の参加もお願いしています。入院初期に実施し、その後は1ヶ月単位もしくは必要時に実施。

○退院支援

家屋調査や退院前カンファレンスの実施。
かかりつけ医、ケアマネジャーや在宅支援者への情報提供。

現在のコロナ禍では、状況に応じてリモートでの面会や説明、書面や動画での情報提供等の対応を行っています。

医師、看護師、リハビリスタッフ、介護福祉士、薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士、医療ソーシャルワーカーなど、多職種で患者さんを生活者の視点で捉え、在宅生活が少しでも長く継続できるように総合的な支援を目指しています。

その実現には、患者さん、ご家族、ケアマネジャー、在宅支援者の皆さんがチーム医療の一員として、一緒に参加していただくことが、欠かせないと考えています。

患者さんの病状や体調の変化に対して、**かかりつけ医**や**ケアマネジャー**、**在宅支援者**と連携し、地域包括ケア病棟の活用によって、救急搬送を未然に防ぐことができるケースもあると思います。

『ときどき入院、ほぼ在宅』を実現する為には、
病院、在宅、施設を一体とした切れ目のない
医療・介護連携が重要となります。

地域包括ケア病棟が、地域の方々やその支援者
にとって、有効な役割を担えるように、今後も
努めていきたいと思えます。



ご清聴ありがとうございました

